主題：少子高齢社会に対する次世代の政策課題について(2)

ー副題：経済財政諮問会議の動向から見た介護ロボットへの期待

○　未来社会システム研究会　氏名　谷尾　昌威（008728）

キーワード３つ：社会保障、経済・財政再生計画、介護ロボット

１．研 究 目 的

「経済財政運営と改革の基本方針2015(骨太方針)」(平成27年6月30日閣議決定)を受け、政府は、具体的な行動計画「経済・財政再生アクション・プログラム」（平成27年12月24日経済財政諮問会議)として、「公的サービスの産業化」を位置づけ、平成28年度より、「介護ロボットの開発の方向性について開発者と介護職員が協議する場を設置することにより、開発段階から介護施設の実際のニーズを反映」すること、「福祉用具や介護ロボットの実用化を支援するため、介護現場における機器の有効性の評価手法の確立、介護現場と開発現場のマッチング支援によるモニター調査の円滑な実施等を推進」するとした改革工程表を示した。こうした具体的なアクション・プログラムを踏まえ、将来、1.2人で、1人を支える時代の社会福祉政策課題を考える。

２．研究の視点および方法

研究の視点として、介護ロボットが果たす役割について、想定される不足する介護の担い手から、どう介護ロボットが機能することが望まれるのか、その期待されるロボットの機能について、社会福祉的な立場から準備すべきことを考察する。研究方法として、文献研究を中心とし、各種審議会資料、ロボットの開発状況等の資料等

３．倫理的配慮

文献研究に際して、日本社会福祉学会研究倫理指針を遵守する。

４．研 究 結 果

将来、1 人が 1 人の高齢者を支える時代を迎えると想定される中で、経済や産業が健全に機能し、社会保障が健全に機能するためには、社会福祉政策の抜本的な改革が必要となる。とりわけ現状の制度的枠組みでの介護の人材確保は、人口推移から見ても明らかに、困難であると想像でき、代替えの仕組み作りは、その必要性が高い。近年、世界に目を向けると、介護ロボットの開発・普及が急速に進んでおり、担い手の代替えとして期待される介護ロボット開発は、その期待が大きい。では、その介護ロボット、介護人材から見た需要と供給バランスは、平成 25 年度(2013 年)から人口減少を踏まえ、平成 37 年度(2025 年)には、37.7 万人の介護人材が不足すると予測され、その後も不足幅は拡大すると予想できる。この不足部分を補う方針として、日本経済再生本部が平成 27 年 2 月 10 日に決定した「介護分野におけるロボット新戦略」として、開発の重点分野を位置づけ、移乗支援、移動支援、排泄支援、認知症見守り、入浴支援をあげている。介護ロボット開発において、施設、在宅と様々な活用場面、その果たす役割が高く期待されるなか、とりわけ、中核的役割を果たすであろうヒューマノイドに的を絞り、開発する際の機能について、様々な面から多角的に考察する必要がある。

5. 考 察

社会福祉政策課題を考えるとき、人口減少と高齢者の増加、それを支える人材の不足は、深刻な課題である。そうしたなか次世代の高齢者を支える仕組みづくりは、日本の経済・財政へ大きく影響する内容である。近年、世界でも介護人材の不足に対して、介護ロボット開発は急速に進んでおり、こうした動きは、日本においても注視すべきところで、ロボット産業界、ロボット学会との社会福祉学会との連携は、重要性を増すと考える。今後、社会福祉学において、ロボットと人、その関係性において、起こる様々な課題について、今後、研究分野として取り入れていく必要があるのではないか。